

コリウス プレミアムサン・コレクション

学名: *Solenostemon scutellarioides*
 種子粒数の目安: グラムあたり約 970 粒

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 5.8 の範囲、また初期の培地は中庸 (EC 値: 0.75mS/cm 以下)とする

播種

288 穴、あるいはそれよりも大きなプラグトレイを用いる。ヨーロッパで用いられている 264 穴のトレイの利用も可能。パーミキュライト等で軽く覆土する

ステージ 1 - 発芽には 4, 5 日要する

地温: 22-24°C

光条件: 光は不要である

水分: 培地の水分は湿り気を含む状態 (level 4 のウエット) を保つが、多すぎて飽和しないように注意する

湿度: 幼根が現れる頃までは相対湿度 95%以上を維持する
 ※ コリウスは高濃度の塩類、とくにアンモニアが高くなると障害が出やすい発芽期には注意が必要。培地のアンモニアのレベルは 10ppm 以下に抑える

ステージ 2

地温: 21-24°C

光条件: 最大で 26,900 ルクス (2,500 f.c.) まで可能

水分: 培地の水分を少し抑え、湿った感じからふつうの状態 (level 4 から level 3) にして、根が培地の中を行き渡るように促す

肥料: 濃度をレート 1 (100ppm(N) 以下、EC 値が 0.7mS/cm 以下) で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える。肥料は、かん水 2、3 回に 1 度の頻度で与える。防疫の観点から、かん水はなるべく早い時間に行い、夕方まで葉に水滴が残らないようにする。培地の pH は 5.5 から 6.2 の範囲、また EC 値は 1.0mS/cm 以下とする

ステージ 3

地温: 20-21°C

光条件: 26,900 ルクス (2,500 f.c.) まで可能

水分: 水やりの直前までは、培地の表面がやや茶色になるくらいまで乾いた状態にする (level 2)。乾かしながら根の生長を促し、脇からの余計な新芽を抑えてやる。水分は、ドライとウエット (level 2 から 4) を繰り返す続けるようにする

肥料: 肥料の濃度をレート 2 (100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2mS/cm) に上げる。培地の pH は 5.5 から 5.8、また EC 値は 1.0mS/cm (1:2) 以下とする (矮化剤へつづく)

矮化剤: 通常は不要である。必要であれば、ボンザイ、B ナイン、A レストなどがコリウスの生長制御には有効である。矮化剤の使用時は、注意書きをよく読み法令等に基づいた使用方法を行う。また DIF (とくに日昇後 2 時間の昼間と夜間の温度差) を用いても丈の伸張を抑えることが可能である

ステージ 4

地温: 16-17°C が適正

光条件: 温度の調整が可能であれば、53,800 ルクス (5,000 f.c.) まで上げることが可能

水分: 上記ステージ 3 と同じ

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

カットパック、9cm ポット: 1 本植え (チョコレートチェリーのみ)

10.5 から 13cm: 1 本植え

15cm: 3 本植え

培地 (用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。pH は 5.5 から 6.0 が適正、培地の初期の養分量は中庸 (0.75mS/cm) とする

温度

昼間温度: 18 から 24°C

夜間温度: 14 から 18°C

光条件 (照度)

53,800 ルクス (5,000 f.c.) を超える場合は遮光する

かん水

極端な過湿、乾燥ともに避けるようにする

肥料

コリウスは基本的にはあまり肥料を必要としない植物である。肥料が過剰に供与されると、葉の発色がわるくなり、また活力が衰えることもある。通常は、リン酸分が低カリウムの多い硝酸態の肥料を主体に用いて、レート 2 (100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2mS/cm) の濃度で適宜与える。EC 値は 1.0mS/cm (1:2) を維持する

矮化処理剤

まずは環境条件のもと、肥料分やかん水などの管理面から生長制御を行うことを心がけ、それから必要に応じて矮化剤を用いるようにする。茎の伸張を回避するためにアンモニア態窒素の肥料の使用を最小限とする。コリウスはネガティブ(マイナス)DIFによく反応する植物で、これによっても丈の伸びを抑えることができる

必要であれば、分枝の増長と丈の抑制のためエテホン(エスレル)の利用が可能である。移植後 2,3 週に 300ppm で処理することで効果が確認されている。エテホン(エスレル)は開花遅延にも作用する

他の選択肢として、B-ナインの 2,500 から 5,000ppm(有効成分 85%の溶質の場合は、1 リットルに 3 から 6 グラムを融解)の散布で、コリウスの丈の制御に効果が確認されている。これらは移植後 2,3 週後に行うようにする。また必要であれば、繰り返し散布する

ピンチ

不要である

スペーシング

隣どうしの葉が触れるようになったら適宜スペースをとる

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 5 から 6 週

移植から出荷適期まで: 6 から 8 週

病虫害について

害虫: アブラムシ、カイガラムシ、ホワイトフライなどに注意

病気: ボトリティスや斑点病、バーテシリウム、バト病等の感染が報告されている

その他の注意点: 日照量や光条件の弱いと、また株密度が高過ぎると節間の伸びが顕著になるので注意する

花壇定植や造園用途について

- 直射日光に対する耐性は、例えばヨーロッパのようなそれほど強くない日照において、乾燥せず比較的湿度が高く維持されるような条件のもとで原則として得られる特性である。もちろん日陰条件でも適切である
- 温度や湿度の高い条件にも強い性質を有しています
- 草丈は、品種によって異なり 30 から 70cm
- 株の手入などは最小の手間で済みます
- 日照不足などの条件の下では徒長することがあります
- 排水のよい土に、30 から 35cm の株間で植えます

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。